オブジェクション１４３　思い込み編

岡森 利幸

本編は、次の８項目からなる。

①アンネの日記とユダヤ人迫害
②美味しんぼの鼻血
③中国軍機のアフターバーナー
④セウォル号の転覆
⑤店の従業員を次々に消していった夫婦
⑥黒人を試合に連れて来ないでくれ
⑦最後は金目でしょ
⑧自分が結婚すればいいじゃないか

①アンネの日記とユダヤ人迫害

以下は、新聞記事の引用・要約。

【毎日新聞朝刊 2014/2/23 社会
東京都内の公立図書館が所蔵する「アンネの日記」や関連図書が相次いで見つかった問題で、被害は３００冊超えることがわかった。５市３区の３８館で計３００冊。各図書館は警備員や職員による巡回を強化したり、開架書庫から貸し出しカウンターに移したりして警戒している。
「小川洋子対話集」など題名だけでは関連が判らない本も含まれるが、アンネ・フランクのキーワードで蔵書検索すると探し出せる本だという。】

【毎日新聞朝刊 2014/3/14 社会
容疑者の男は２月１９日と２２日の午後２時ごろ「ジュンク堂書店池袋店」にビラを貼る目的で立ち入った容疑で、今月７日逮捕された。ビラには「アシスタントとゴーストライターは違います」などと意味不明の文言が手書きされていた。同書店では１月と２月２１日に「アンネの日記」２冊が破られていた。】

【毎日新聞朝刊 2014/3/15 社会
男は東京都小平氏の無職の男（36）。破いた理由について、「アンネ自身が書いたものではないと批判したかった」という。男は主に自転車で図書館や書店を回っていた。】

ユダヤ人にとって、パレスチナといえば祖国であり、帰るべき故郷の地なのだ。彼らはそれを「約束の地」

と呼ぶ。１９世紀終末から、パレスチナに故郷を建設しようとする運動「シオニズム」が提唱され、第一次世界大戦後にパレスチナの委任統治国となったイギリスより、再建協力の約束を取り付けてから現実味を帯び始め、曲がりなりにも、彼らはその故郷の地に帰ってきた。信念を貫き、そこに長年住み着いていた多くの先住のパレスチナ人たちを押しのけ、強引に割り込んでイスラエルを建国したことになる。１９４８年５月１４日に独立宣言がなされた。

そう書くと、ユダヤ人は加害者的だが、ユダヤ人たちは数千年来、差別され、迫害され、いくたびか悲惨な目にあってきた。第二次世界大戦中でのドイツ・ヒトラー政権・ナチズムによる迫害は特にすさまじく、「ホロコースト」と呼ばれているのは周知のとおりだ。大勢のユダヤ人を効率よく殺すための処理施設が各地に作られた。「アンネの日記」は、一人の少女が家族とともにナチから逃れたものの、オランダの隠れ家にひそみ、ナチの秘密警察に見つけ出されるまでの約２年間の恐怖の体験をつづったものだ。

なぜ、そんな少女の書物に反感を持つのか、東京近辺の公共図書館の蔵書３００冊以上の本を破りまくったのか、理解しがたいところがある。その犯人を単独犯と仮定して、その人物像をかってに推測すると、

・悲惨な体験が書かれた本が嫌いだ。
・そもそも、ユダヤ人が嫌いだ。少女であろうと、かわいくない。
・ホロコーストなんて、考えてみるだけでも、気分が悪い。こんな本など、クソくらえだ！
・こんな少女が、死後７０年以上たっても、いまだにもてはやされるのは、なまいきだ！

彼にはそんな言い分があるのかもしれない。イスラエルに反発する国から東京にやって来た人かもしれない。本のページが引きちぎられているのを見ると、その本に対して相当な嫌悪感を持っている人物の仕業であることが想像される。ほとんど腹いせ的な行為と思われるが、３００冊以上の本を破りまくり、果たして彼の気分はいやされただろうか。破りまくっても、嫌悪感が消えないのならば、意味がなかったことになる。

これは今や国際的に知れ渡っているから、日本の警察がその威信をかけ、懸命な捜査の末、逮捕にこぎつけるのは時間の問題かもしれない。それて官憲に厳しく動機を追及されたとき、おそらく彼はあいまいなことしか言えないだろう。長時間に渡って問い詰められ、

きつく罰せられる（悪質な器物損壊だから執行猶予にはならないだろう）のは必然だから、それを根に持ち、彼の「アンネの日記」への嫌悪感はますます高まるかもしれない。

ユダヤ人迫害の歴史を知り、ユダヤ人を理解すれば、彼の嫌悪感は和らぐと思うので、要点を書いてみたい。まず、ユダヤ人がなぜ周囲の者から嫌われるかを考えよう。

・裏切り者：ユダヤ人のユダはキリストの門徒でありながら、最後の晩餐の時、いくばくかの賞金を得るためにキリストを裏切って死に追いやったとされる。聖書にそう書かれたものだから、ユダヤ人は裏切り者だということが定評となった。

・キリストに意地悪をした：ヨーロッパの伝説で、十字架をせおって刑場へむかうキリストが、ある家の戸口で休息しようとするのを拒否したため、その家の主のユダヤ人は「最後の審判」の日まで地上をさまよう運命をあたえられたという。

・背信者：キリスト教は、他の宗教・宗派に対して寛容でなく、異端とみなす傾向が強い。キリスト教はユダヤ教から派生した一宗派だったのに、ユダヤ教を異端の宗教、邪教として排除しようとした。キリスト教徒から見れば、ユダヤ教はオカルト教にみえるらしい。ユダヤ人たちは、オカルト教の集団ともなされた。

・不審者：ユダヤ人たちはどこからかやってきたよそ者であり、異民族であり、得体が知れない。

・社会に溶け込まない。打ち解けない：ユダヤ人たちは閉鎖的なクループになる傾向があった。

・利己的で計算高い、ずるがしこい：金がすべての人たちだ。彼らは教育には熱心で、教育レベルが高いから、計算高く、商才に長けていた。

・汚（きたな）らしい、貧乏でみすぼらしい、下品：各地でユダヤ人の多くは特定の狭い居住地（ゲットー）に住まわされた。ユダヤ人自身も地域に溶け込もうとせず（同化しない）、排他的な傾向がある。その住居は衛生状態が悪く、感染症が入ると、あっという間に伝染したという。

・醜い、くさい：ユダヤ人は財産を没収・強奪され、追放されたので、着の身着のまま逃げてきたという人が多かった。才覚を発揮し、貧乏から抜け出したのは、一部の人たちだ。

・言葉が通じない、なまりがひどい：その国の言葉が流暢にしゃべれるようになるまでには、だれでも同

じ事情たろう。

・ユダヤ人は人種的に劣等：だいたい、だれでも主観的に考えるから、自分が属する人種や民族が一番優秀だと思いがちである。現代では、人種的な優劣は、たとえ科学的な根拠があったとしても、差別や侮蔑することになるから、語ってはいけないことになっている。

・病原菌を持ち込んでくる：ヨーロッパで大流行したコレラなどの病原菌を持ち込んだのは、しばしばユダヤ人のせいにされた。

これらの評判は、主観的で、一人一人の偏見と誤解によるものといえるが、社会の通念になってしまうと、なかなかそれらの悪評を晴らすことは難しくなる。ユダヤ人の多くは、ヨーロッパの各地で土地の所有が禁じられ、定住できず、社会の片隅で、底辺で生きるしかなかった。社会の底辺でなら、生きられたという一面もある。そんな生活が周辺の住民から徹底的にはさげすまれてしまった。災いをもたらす人々という悪評も立ってしまった。

風俗習慣も違い、信仰さえ違うとなると、〈あいつらは何を考えているのだ〉となると不信感が増すものだろう。〈自分たちとは違う人間だ〉ということになってしまう。感覚的な好き嫌いが、社会的なレベルで表に出てしまっていた。

ユダヤ人たちはヨーロッパの各地に分散したけれど、各地で軋轢が生じた。彼らは社会の底辺に居所を見つけ、一般の人が嫌がる仕事をして生活し、なまじ力を蓄えてくると、周囲の者から反発されたり憎まれたりして、迫害されてしまうところがある

特に、錯誤と迷信が渦巻く中世において、一時的に寛容だった国々でも迫害に転じたりした。それぞれの国で、集団的に財産が没収され、略奪され、惨殺されたりする事件が発生している。ドイツでは、十字軍の名を借りながら、聖地に行くわけではなく、地域内のユダヤ人居住区を襲撃したりしている。組織的に虐殺が行なわれたから、多くのユダヤ人が東ヨーロッパのポーランドやロシアに逃げ込んだ。比較的ユダヤ人に寛容だったスペインでも、ユダヤ人たちを異端審問（魔女裁判と同等）にかけたり、拷問したりしている。ユダヤ人がキリスト教徒の井戸に毒を入れたという噂もまことしやかにささやかれた。国家レベルの政治権力が、民族的な差別によりユダヤ人たちを排斥し、追放した例が実に多くみられる。ユダヤ人は、迫害を逃れ

るため、世界中に離散し、その各地で迫害が加えられ、ほとんど難民として別の地にまた移動したりしている。

フランスではその革命で、やっとユダヤ人が解放される空気が生じたのは、先進的だった。１７９１年九月にユダヤ人に市民権を与える決議が行なわれた。しかし、他のヨーロッパ諸国では、まだ保守的で、排他的な民族主義的傾向を強めたりしていた。

アメリカ大陸は、そんなユダヤ人を受け入れる大きな受け皿となったが、ここでも、移民の数に制限が加えられたりしている。ヨーロッパでの偏見が持ち込まれていたりして、ユダヤ人はいろいろ面で慣習的な差別を受けたりしていることが現代に続いている。アメリカンドリームを実現し、経済的に成功したユダヤ人も何人かいるのだが、今でも、子どもが学校でいじめを受けたり、進学や就職で、法的な規制がかからない、見えない壁に直面するという。ユダヤ人がいい企業に就職しようにも、採用試験で不利な扱いを受けるし、ゴルフをしようにも、ユダヤ人はカントリー・クラブの会員に認定されないことが多い。

１９世紀末のロシアで、ユダヤ人襲撃（ポグロム）の嵐が吹き荒れた。その後のロシア革命では、ユダヤ人の一部が画策・協力し、革命成功の一役買ったのに、革命後は独裁的政権がまたユダヤ人の迫害を始めた。近年のロシア（ソビエト連邦）では、役所仕事そのものの非能率なやり方で、イスラエルに移住を希望するユダヤ人たちへの許認可業務は遅々として進まず〈ユダヤ人の財産はロシアで稼いだものだから、ロシアのものだ。すべてロシアに置いて行け〉という屁理屈をつけて、ほとんど財産没収するような高額な税金を課し、やっと許可を出しているという。

そして近代のドイツでは、ヒトラー政権となってから、自分たちのゲルマン民族の優秀性を信じ、ユダヤ人との混血を徹底的に嫌い、ユダヤ人迫害を強硬に推し進め、第二次世界大戦中、ドイツの地だけでなく、占領地のポーランド、オランダなどでも、ユダヤ人を収容所に送り、根絶やしにしようとする政策を組織的に行なった。収容所では、ユダヤ人たちにほとんど食事を与えず、やせ衰えさせてから、ガス室に送っていた。そのトイレだという写真を見たとき、私はびっくりしたものだ。四角い穴が縦横に格子状に、いくつもあけられていた。ふと、不謹慎にも、「ユダヤ人は痩せさせてから殺せ」というもじり言葉が頭に浮かんだものだ。

なお、ヒトラー政権はユダヤ人だけでなく、インド

北西部に起源をもつ放浪の民、ロム人（複数形でロマ人ともいう。かつてジプシーと呼ばれた）も収容所に送って、その約４０万人を殺したとされる。彼らもヨーロッパの各地で同様な迫害にあっていた。

ユダヤ人が中東のパレスチナの地に割り込むように入ってイスラエルを建国してから、宗教的には寛容だった周辺のアラブ諸国との対立が深まった。建国宣言したその日の夜から、アラブ側からの空襲を受けたりした。さらに領地内では先住していたパレスチナ人との内部的な確執も強まることになった。パレスチナ解放組織（ＰＬＯなど）が結成され、彼らは頑強なゲリラ戦を展開する。イスラエル政府にとっては非常にやっかいな存在になった。

本来、ユダヤ人とアラブ人は人種的に近い関係にある（セム語族に属する）が、国際スポーツ大会などで、アラブ人はイスエラルの選手とは対戦を拒否するほど、険悪な仲になっている。パレスチナはイスラム教徒にとっても聖地であり、アラブの固有の土地なのだ。アラブの土地をユダヤ人に武力で奪われたという憎悪は相当に強い。第４次に渡る中東戦争やレバノン内戦にも関わり、犠牲者や難民を大量に出し、イスラエルは完全にアラブの敵国になった。イスラエルに固執したユダヤ人、シオニストはアラブの敵と喧伝されている。隣のシリアでは、イスラエルのもつ強力な軍事力や核兵器に対抗するため、大量の化学兵器（毒ガス）を製造・保有していたし、イランは〈原爆を開発したら早速イスラエルに打ち込んでやる！〉と本気でいきまいているのだ。何としてでも、パレスチナを奪い返すという意欲に燃えている。「ユダヤ人を地中海に追い落とせ」が彼らのスローガンだ。武力で奪われたのなら、武力で奪い返す！

パレスチナの地にイスラエルの建国を強行しなければならなかったユダヤ人の苦難の歴史が今も続いている。

アンネの日記の本を破った容疑者として、警察は３月７日に別件で一人の男を捕まえた。２月にビラを貼るために書店に侵入したとして逮捕した。本を破った容疑も固まった。ただし容疑者は精神的な問題で刑事責任が問えない可能性があるらしく、実名が公表されていない。さて、その動機は何だったか。その供述では、思想・信条に関係がなく、単なる精神的な「思い込み」によるものらしい。それでは、私は拍子抜けしてしまう。

結局、６月になって彼は不起訴処分となった。これ

だけ世間を騒がせた彼は、何の罰も受けないことになる。法廷で裁かれないことに、理不尽さを感じる。彼には、アンネがなぜ屋根裏に隠れ住んでいたのか、理解できただろうか。

参考図書：「ユダヤの世界」ＮＨＫ海外取材班、日本放送出版協会

---

②美味しんぼの鼻血

【毎日新聞夕刊 2014/5/9 社会

小学館の週刊誌の漫画「美味しんぼ」で、福島第１原発を訪れた主人公らが鼻血を出す場面が描かれた問題について、石原伸晃環境相が９日の閣議後の記者会見で「その描写が何を意図しているのか（略）まったく理解できない」と不快感を示した。福島の特産物にも触れ、「（風評被害が発生すると）取り返しつかない」】

【毎日新聞朝刊 2014/5/10 総合

作品に実名で登場した前二葉町町長、井戸川克隆さん（67）「実際鼻血が出る人の話を多く聞いている。私自身、毎日鼻血が出て、特に朝がひどい。（放射線の影響で鼻血が出るという）発言の撤回はありえない」】

【毎日新聞夕刊 2014/5/12 社会

「美味しんぼ」に、東日本大震災のがれきを受け入れた大阪市でその焼却場周辺の住民を「お母さんたち」が調査したところ、約１０００人のうち約８００人が不快な症状（健康被害）を訴えたとする発言があったのに対し、大阪府と大阪市は「事実と異なる表現は風評被害を招き、極めて不適切な表現だ」とする抗議文を小学館に送った。

また、美味しんぼの鼻血描写に福島県が「風評被害を助長するものとして断固容認できず、極めて遺憾」との反論をホームページに掲げた。「科学的知見を丁寧に取材したうえで、偏らない客観的な事実を基にした表現とするよう強く申し入れる」と抗議。】

【毎日新聞朝刊 2014/5/18 総合

安倍首相は福島県を訪れ、医療機関などを視察した。放射線による風評被害について「根拠のない風評を払拭（ふっしょく）していくためにも、県民や国民に正確な情報を出していくことに力を尽くす」　県民健康調査を行う福島県立医大では、「県民の健康状況は他県と違いがないと聞いた。そうした正しい情報を伝えて

いきたい」】

【毎日新聞夕刊 2014/5/26 社会・憂楽帳

鼻血は被ばくが原因だ、と登場人物に語らせた漫画を非科学的だと切り捨てるのはたやすい。しかし、不安を抱えつつ多数の人々が福島に暮らしている現実がある。福島で気になる声を何度か聞いた。「不安を口にできない空気がある」、「相談する相手がいない」という住民の声だ。復興の御旗が本音の表明を抑圧していないのか。】

【毎日新聞夕刊 2014/5/30 社会

福島県相馬郡医師会は、３０日の自民党環境部会で、原発事故後に鼻血の症状を訴える患者が増えたかを管内の医療機関に尋ねたアンケート結果を報告した。４市町村の６６医療機関を対象に今月下旬に実施。回答した５２機関中４９機関が鼻血増加を否定したが、３機関で（患者数が）増えた、あるいは回数が増えたとする。ただし、放射線被ばくとの因果関係が疑われる診断結果はなかったという。】

1．「美味しんぼ」の問題提起

「美味しんぼ」の主人公は、福島県を訪れて鼻血を出す。中の登場人物は「鼻血は放射線の影響だ」と言い切っている。

美味しんぼは、料理・食に関することを漫画で描いたものと私は思っていたが、行政が眉をひそめるようなメニューをまな板に乗せてきたのだから、もうこれは反体制的な政治漫画になっている。漫画というより、ノンフィクションで問題提起している。「風評」を押さえ込もうとする行政の方針にたて突いているのだ。漫画の中では、さらに「今の福島に住み続けて良いのか……」「私は福島の人たちに、危ないところから逃げる勇気を持ってほしいと言いたい」など、福島県知事があわてふためくようなフレーズまで入れている。

大阪市での、がれき（放射性物質に汚染されたものを含む）の処理についても、周辺住民への影響を作者は言及した。

2．反発を強める行政

これに真っ先に抗議したのは福島県や原発事故周辺の市町村の首長たちだ。青年向けの週刊誌での漫画の描写にクレームをつけた。政府や福島県のトップが、連載漫画「美味しんぼ」の登場人物たちが鼻血を出した描写に不快感を示し、あるいは反発している。漫画では鼻血は放射線の影響だとしているのに対し、〈放

射線で鼻血が出るわけない。根拠がない。読者に余計な不安をあおるな〉〈医学的に証明されていないことを言うな〉と怒っているわけだ。〈鼻血はでたらめであって、風評そのものであり、福島の評価をおとしめる〉と言いたいのだろう。

漫画の中の登場人物の発言内容に関し、政府からは石原伸晃環境相も、安倍晋三首相も口出ししてきたのだから、大ごとだ。美味しんぼの作者・雁屋哲氏と関係行政との全面対決の様相を呈している。

本来は料理をテーマにしている連載漫画が、福島原発事故の放射線の脅威をここまであえて表現したことは、感心させられる。放射線の健康被害の実態に言及し、それを無視するかのような東電と国の姿勢を問い正している。政治的圧力をものともせず、定説にまっこうから挑戦したことになる。

3．放射線で鼻血が出やすくなるという事実

作者の雁屋哲氏は、単に思い込みで書いたのではなく、現地に行って取材し、複数の人から話を聞いている。事実があるから、書いたといっている。鼻血が出やすくなった人たちを現地で実際に見聞きたのだという。記事に掲げたように、前二葉町町長・井戸川さんの証言もある。毎日新聞朝刊２０１４年５月２０日の記事（引用は省略）の中にも、記者が取材した範囲で、少女が鼻血を出すようになって避難を決意したという複数の県民の証言が載っている。

そんな騒ぎを受けて、相馬郡医師会が鼻血問題を受けて緊急調査した結果で、５２機関中３機関で増えたとしたことに注目したい。調査は、患者が鼻血が出やすくなったと訴えたことをカウントしている。つまり、医師へのアンケート調査だ。医師が、来診した患者に〈あなたは鼻血が出やすくなったか〉などと聞いた結果ではない。３機関で、医師に訴える患者が増えたということは、これはかなり有意性がある、と考えられる。一般に鼻血が止まらなくなったら別だが、少し出るぐらいでは、日常生活に困らないから、病院に行かないし、わざわざ医師に相談したりしないものだろう。医師に訴えるケースは、ある程度差し迫っているからだ。自分で治療など不要と思えば、医師に訴えたりしない。つまり、実際に住民たちが鼻血を出しやすくなっていたとしても、医師に訴えるのはその一部だと思うのだ。医師に聞かれもしないのに、鼻血を訴えた人が増えたということは、その背景にもっと多くの人がいるはずと考えなければならない。「あなたはここ数

年で、鼻血が出やすくなりましたか」という質問を直接住民にぶつければ、はっきりする。医師に聞くだけでは、調査的に不十分だけれど、医師会が調査をした姿勢はほめたい。それにしても、６６機関が調査対象になっていたのに、答えたのは５２医療機関だけというのも、消極的な対応だ。

４．鼻血が出やすくなったと思いたくない政府

政府にはこれまで、放射線量の実測データを公表しなかったり隠していた数々の事実がある。それは政府に不都合な数値が示されたからだ。健康被害に関しても、ろくに調査していなかったりして、「健康被害はなかった」と言い張るつもりらしい。ただし、福島県では若者を対象に甲状腺の異常などを検査してはいるが、しぶしぶ結果の数値を示している。その数値が高まっても、放射線によるものだとははっきり言わないのだ。悪い数値が出れば、覆い隠そうとしたりごまかしたりしていることがありありとわかる。好ましくない数値の発表を躊躇してしまうのだ。福島県での放射線を危険視するようなデータや発言は、風評被害を招くとして、すべてタブーのごとく、抑え込もうとしている。行政側に不都合な情報は、ほとんど風評として扱われる――これは法則のようなものになっている。

彼らは、原子力政策を今後とも推し進めるためには危険だとは言いたくないし、福島県から人が出て行ったままでは、困るのだ。住民の健康がどうであれ、福島県の産業、特に農業や水産業が衰退することが一番の心配の種なのだ。いまだに約１５万人といわれる避難した人たちを元の福島県の地に戻すことも、課題となっている。戻ってくれないと、その費用も大きくなって、負担する東電や政府が困るのだ。一通り除染をしたことにして（いい加減な作業をしていたという報告例もある）、かれらを早く帰還させたい意図がみえている。

安心して（気にせずに）福島県に住んでもらうためには、放射線のために健康被害が出たとする風説など、もみ消したいわけだ。鼻血が出るというような、一部の個人の主張など、不都合な事実に他（ほか）ならない。現状は一顧もされていないという。

５．科学的に証明されていないじゃないか

放射線の健康被害に目を背けたい政府や地方自治体（特に、福島県）が口をそろえて、〈放射線のせいで鼻血が出る〉という漫画の描写を、「科学的に証明さ

れていない」「誤解だ」「根拠のない風説」として否定し、「そんなことを漫画に描くのはけしからん」とまで言い切り、怒りをあらわにしたりしている。

「風評被害を助長ではないか。住民を不安に陥れるつもりか？」という言い分だ。メディアなども、「低レベルの放射線で鼻血が出るなど、聞いたことがない。ありえない」などという専門家のコメントを引用したりしている。彼らは、鼻血が出るなど、デマだといっているかのようだ。

彼らの言い分は、「放射線は無害だから、鼻血が出たなんて、でたらめだ」と言っているようなものだ。「福島原発は絶対安全だから、津波で事故になるなんて、ありえない。え？　１０メートル以上の津波が来るという仮説がある？　ばかばかしい」と、対策を怠ってきことが連想されるところだ。

本当に鼻血を「誤った風説」として握りつぶしていいのだろうか。頭から鼻血を否定する態度では、科学的とはいえない。鼻血を放射線に結び付けるのは、専門家では無理かもしれない。素人だから、そんな発想ができるのだ。実体験という「根拠」があるから、確信をもって言えるのだろう。その証言者は、自分一人だけではなく複数人いるという。それを真実ではないと言い切るためには、すくなくとも、彼らの主張に耳を傾け、実態を調査してからだろう。

６．放射線の影響

「放射線で、どうして鼻血が出るのだ？」という素朴な疑問もあるだろう。低レベルの放射線が鼻血に結びつくはずはない、と言い張る人もいるだろう。それを解明するには、研究調査するしかない。鼻血が出やすくなったという事実を頭から否定するわけにはいかない。

放射線の健康被害は、短期間に高線量の放射線を浴びたケースは別として、比較的低レベルの放射線を長期にわたって浴びた場合、目に見えた形で現われる特有の症状は少ない。代表的なものが、がんだろう。がんが多発しなければよしとする、開き直った考え方もあるかもしれない。しかし、放射線被害は、生物の細胞レベルに影響するものだから、特定の部位に限らず、体調が悪くなることは、当然考えられる。放射線の要因でがんになるのは、放射線によって細胞の中の遺伝子（あるいはＤＮＡ）が相当に損傷した結果、異常な細胞分裂を繰り返しているものだ。放射線の作用でがんにならなくても、そんな損傷によって、外見からで

はわからないところで、いろいろな症状が起りえる。免疫力の低下で一般の病気にもなりやすくなるだろう。「老化」とみまがう症状も起きるだろう。疲れやすい・だるいなど「不定愁訴」も多く出ることだろう。脳に関係して精神的な面にも影響するかもしれない。医師は「気のせいだ」という診断しか下せない例も多くあるだろう。放射線との関連性が疑われても、それを立証するには、大規模な疫学的調査が必要だし、時間もかかるものだろう。でも、調査する費用はたいしたことはないはずだ。

鼻血に関して、放射線の直接的な作用ではないにしても、総合的な体調の異変の一つとして、間接的な形で現われた可能性がある（確率的にはわずかであろうとも）。体への影響がどんな形で現われるか、まだよくわかっていないのが放射線だろう。一般の病気との切り分けが相当に難しそうだ。それは、実証できないことの言い訳になる。

すべて福島県民の不定愁訴を調べて回る価値はあるだろう。しかし、調べても公表しないと、「放射線の影響はなかった」ことになってしまう。おそらく、放射線の影響があってほしくない政府側・東電側としては、そして相当に疑わしい事例があったとしても、「放射線の影響による症状とは実証できなかった」と結論付けそうだ。そもそも、放射線の影響による症状があってほしくないから、長期的に調査する意欲もないし、予算も多くはつけようともしないのだろう。福島県立医大が放射線の影響を調査しているというが、行政の意に反するような結果を公表しようものなら、事件になってしまう？

---

③中国軍機のアフターバーナー

【航空ファン N0-740 2014-8 月号 防衛省-自衛隊

５月２４日、中国空軍の殲１１（Ｓｕ－２７型）戦闘機が東シナ海の日中中間線付近を飛行していた海自８１空（岩国）のＯＰ－３Ｃと空自総司飛（入間）のＹＳ－１１ＥＢに異常接近した。

２機編隊の戦闘機は実弾と見られる空対空ミサイルを懸架し、午前１１時ごろＯＰ－３Ｃに接近し、そのうち１機が５０ｍほどの距離に近づいた。さらに正午ごろ同戦闘機がＹＳ－１１ＥＢに接近、１機が後方から追い抜くかたちで飛び去った。そのとき約３０ｍ接近し、追い抜きざまにアフターバーナーに点火して気流を乱した。これによってＹＳ機はか

なり揺さぶられたと伝えられる。】

【毎日新聞夕刊 2014/5/26 一面、総合

小野寺五典防衛相は、東シナ海の公海上を飛行していた自衛隊機２機に、ミサイルを搭載した中国軍戦闘機が異常接近したことについて、「常軌を逸した近接行動だ。ひとつ間違うと偶発的な事故につながる可能性がある危険な行為だ」「どこの国でも一定の距離をとり、対応している。相手を移籍するように近接は通常ない」と、中国側を強く批判した。

異常接近があったのは、東シナ海中部の日本の防空識別圏と、中国が昨年１１月に設定した防空識別圏の重なる空域。２４日午前１１時に、ＯＰ３Ｃ画像情報収集機に、２機の中国軍のＳＵ２７戦闘機が接近し、一揆が５０メートルまで近づいた。１時間後、ＹＳ１１ＥＢ電子測定機に同型機２機が接近、１機が約３０メートルまで近づいた。

政府は中国側の挑発行為として、偵察任務中の自衛隊機が遭遇したトラブルをあえて公表した。防衛関係者らは、「常識ではありえない距離。挑発の意図がうかがえる」と話す。

日本側の抗議に対し、中国国防省は、「中国の識別圏に侵入し、中露海上合同演習を偵察して邪魔をしたため」とし、「一切の偵察と妨害活動をやめる」よう求めた。】

【毎日新聞朝刊 2014/6/12 総合

中国機また異常接近、東シナ海、自衛隊機に30メートル】

３０メートルの至近距離から、アフターバーナーによる熱い気流を吹き付けられた！

機体を大きく揺さぶられたＹＳ‐１１ＥＢの乗員たちは「ヒェ～」と悲鳴に近い声を上げたに違いない。無礼千万な行為だ。顔先に〈臭いガス〉を吹き付けるようなものだ。ＹＳ‐１１ＥＢは、最悪の場合、乱気流に巻き込まれて墜落する危険があった。アフターバーナーは、ジェットエンジン後部に燃料を大量に燃やすことで推力を得る方法で、緊急に機体を加速させる必要があるとき以外は使わないものなのに……。自衛隊機の鼻先でそれを行うとは、わざとらしい。

ＯＰ‐３Ｃ画像情報収集機やＹＳ‐１１ＥＢ電子測定機は、偵察のための軍用機だ。スパイ機と言ってもいいものだから、常に隠密行動だ。よほどのことがない限り、それがどこを飛行していたかなどは公表しないものなのだが、今回は、よほどのことだったから、あえて政府は発表したわけだ。

中国は「中露海上合同演習を邪魔したからだ」と言い訳しているが、防衛相は、異常接近のあったところはその設定された演習の海域、空域とはまったく違う、と反論している。でも客観的に観ると、自衛隊機が、中露の合同軍事演習の区域と大きく離れて飛んでいたとしても、最新の電子機器を備え、広範囲の情報収集能力を持っているものだから、その偵察を任務としていたことは否定できない。

確かに、中国軍にとって目障りな機体であることは間違いない。日本の軍用機が中国の防衛識別圏に入ったことに対する「警告」として、そんな軍用機を排除するため、第一線級の戦闘機ＳＵ２７（中国名：殲１１）を繰り出して脅しつけた、と解釈すべきだろう。

警告というより、威圧行動というべきものだ。「今度、防空識別圏に侵入したら、ミサイルを放つぞ」という意味だ。それを態度で示した。

２機ペアで行動するのも、組織立った、セオリー通りの軍事行動だ。一機が接近したとき、その挑発に乗るかのように自衛隊機が何か武器をふりかざすような反撃行動でもとれば、もう一機の戦闘機が後ろから確実に獲物をしとめるやり方だ。

それにしても、「常軌を逸している」という小野寺防衛相の指摘には、彼らはギクリとしたのではないか。

彼らの行為のあつかましさを、一番よく表現した言葉だろう。中国側は、常軌を逸していると指摘されて、一瞬でも「そうかもしれない」と自省したはずだ。次の瞬間、「何を言いやがる、ジャップめ。テメーらがすべて悪いんだ。テメーらは加害者側だ、歴史を認識しない奴らめ」と、すぐに反日の思いを新たにしたことだろう。

日本政府が外交ルートで、あるいはメディアを通じて、いくら抗議しても彼らは聞こうともしないし、謝りもしない。彼らの防空識別圏は国際的に確定済みであり、もう揺るぎもしないのだ。その侵入は、領空侵犯と同じことだと彼らは思っているのだ。日本が厳重な抗議を行っても、謝るどころか、「テメーらが悪いんだろ？」と言い返された。

中国は6月にまた異常接近してきたのだから、どうしようもない。

---

④セウォル号の転覆

【毎日新聞朝刊2014/4/17 一面、社会

韓国南西部の珍島沖で旅客船「セウォル号」（６８

２５トン）が沈没した事故、韓国の高校の修学旅行生と教師３４０人と、一般客・乗員約１２０人。１６日午前９時ごろ遭難信号を出した後、船体を左に少しずつ傾けながら１１時過ぎに水深約３７メートルの海底に沈没した。

１９９４年建造、日本の運航会社「マルエーフェリー」が鹿児島を拠点に運航した後、韓国の会社が取得し、昨年３月から運航していた。

「ドーン」という音と共に傾き始め、船は３０分ほどで横倒しになった

「船が傾き始めた中でも『そのまま落ち着いてください』の放送が流れていた」

食堂で働いていた男性（１９）、衝撃音を聞いた後、「水が入ってきて一瞬のうちに天井の高さまで上がった」】

【毎日新聞夕刊 2014/4/17 社会

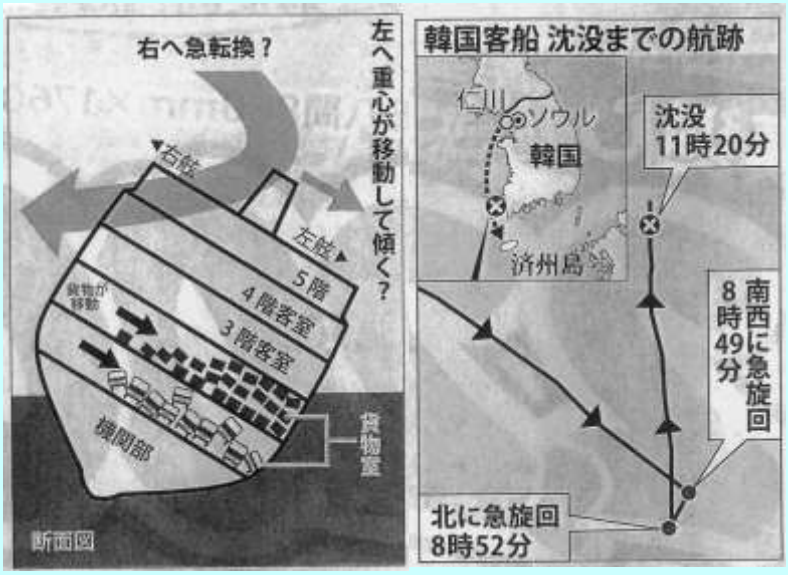
韓国戦沈没、「動かずに救助を待て」の放送が流れた。】

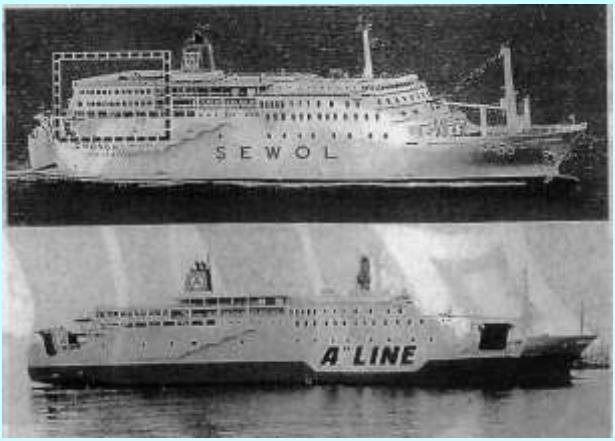
【毎日新聞朝刊 2014/4/19 一面

韓国旅客船「セウォル号」８：４９と８：５２に、異常な右急旋回を２度行った。１１：２０沈没】

【毎日新聞夕刊 2014/4/22 一面

８：４８：３７から３６秒間、船内で停電が起きた。その後、４９分３７秒から大きく右旋回した。】





下図の元の船「フェリーなみのうえ」に比べてセウォル号では、後部客室の、特に５階部分が増築されている（上図の点線部分）。
毎日新聞 2014 年 4 月 18 日朝刊より

４月１６日、セウォル号沈没。この船のタイプを報道では「旅客船」としているが、この船の構造上、貨客船というべきだろう。さらに、単に「フェリー」という方が適切だろう。旅客よりも車両を運搬することを主目的で作られたものだ。港では、それぞれの車両を運転し、そのまま架橋を渡ってフェリーの中に停める。海を渡って目的の港についたら、また車を発進させて上陸し、道路を走っていく――車にとってはまことに便利な輸送手段になっている。船に乗っている間は、運転手にとってよい休憩時間になる。フェリーには、車両の運転手を乗客として運ぶための客室がしつらえられており、ついでに、一般の人も乗せている。さらに、この船は、物資を入れているコンテナを甲板に載せることもできる。前方の甲板に備え付けたクレーンでコンテナの積み下ろしもできる。コンテナ輸送を兼ねている。一隻三鳥の船なのだ。

便利な反面、フェリーボートは、ひっくり返りやすい。船の上部構造が大きいし、積載する車両・物資や乗客をすべて船の喫水線よりも高い位置に乗せているから、そのままでは不安定なのだ。船の姿勢を安定に保つことが難しいから、いままで世界中で悲惨な海難事故がいくつも起きている。といっても、そんな船はバランスを保つためのバラスト機構やスタビライザーを備えているものだし、運行する側が規格や手順に従い、積載量の制限を守っているなら、めったなことでは事故は起きない。荷崩れしないように、貨物を固定することにも注意を払わなければならない。特に過積載しては、どこの国でも法的に禁止されているはずだ。過

積載すれば、危険は伴うが、運賃・運送収入が増え、船会社の売り上げが伸びるというジレンマがある。

もともと不安定なフェリーボートなのに、韓国で中古船を買い入れ、就航させる際、改造を行っている。旅客の定員を１００人増やすために、後部甲板の上に乗せる形で、客室を大幅に建て増した。これが不安定要素をかさ上げしたことは確かだろう。主に最上階の５階部分で、２００トンも重くなっている。

過積載の検査をごまかすため、この船会社では、バラスト水を抜いていたことも発覚した。過積載をすると、船の喫水線が下がる。つまり、船体の全体が海面より下がる。それを見れば、すぐに過積載が疑われるから、船の重心を下げて安定を保つために船底に入れるバラスト水を抜いて船体を上げたという。つまり、船底に入れるバラスト水が不足する状態になる。これでは船の重心を下げて安定を保つための効果がなくなって、ますます不安定になっていたのだ。

この船は、もともと日本で作られたものだから、製造物責任があるはずだから、日本の造船関係者は、少しは責任を感じるべきだろう。日本の造船技術部門は、客室増設の際の設計変更の際、船の安定性に関する計算の見直しに関わらなかったのだろうか。同じような造りの船が、日本でも事故を起こしている。5年前に「ありあけ」が、三重県沖でやはり荷崩れ起こし、船体を大きく傾けて漂流するという事故があった。状況が今回とかなり近似した事故だ。ありあけ号の場合、横波を受けたことがきっかけとされている。その教訓も何も韓国には伝わらなかったとみえる。

積載量は、厳しく守られなければいけないが、この船会社では、積めるだけ積んで出航してさせていた。その理由は、運賃収入が多く得られるから。韓国でこの船を旅客船としているのは、港での検査職員に、乗客の定員には厳しくチェック、貨物の積載については甘くチェックしてもらうためだったのか、と私はあやしんでしまう。厳しくチェックした結果でも、乗船名簿から2人がもれていたというから、怪しいものだ。

この船会社は、拝金主義に徹底していたことがうかがわれる。仁川（インチョン）港からの出航が遅れたのも、会社側は濃霧のためと言い訳しているが、積荷をできるだけ積み込もうとしたことで時間がかかったからではないか。出航直前にも、車両を積み込む映像が残っていた。積み込むや、すぐに出航したことも、疑問視されている。

積荷が固定されたかの確認作業があるから、一般的にすぐには出航しないものだ。積荷が固定されたかの確認もろくに行われていなかったことになる。積荷の固定に手を抜いていたことは、転覆の要因になった荷崩れと大きく関係している。１８０の車両と、３０００トン以上の貨物を載せ、ほぼ満載だった。乗客に関しては、修学旅行の高校生をふくむ４００人？を乗せていたというから定員の半分だが、人の重量など大型船にとって高が知れている。

乗員の教育も訓練もろくに行なわれていなかったのは、それに金をほとんどかけていない予算の内容からでもわかる。中でも船長が、存在感の薄い、名ばかりの「雇われ船員」だったことは、個人的な資質の問題ではなく、会社側の経営に問題がある。ずさんな管理体制だったことが次々に明らかになってきた。

トラックも多く積載していた。済州島へ荷物を運ぶなら、仁川からフェリーに乗らなくても、珍島の港から乗ったほうが、はるかに時間短縮できそうなのに、わざわざ遠回りするように仁川からフェリーを利用したのは、トラック自身の積載量オーバーに対して甘くみてもらえるという理由だったという。積載超過したトラックを台数制限以上に載せていたというから、つまり、二重の過積載になっていたのだ。甲板上に載せるコンテナの数も問題だった。揺れる船の上では乗せたものをしっかり固定しなければないないが、セウォル号では、その作業がろくに行われていなかった実態が明らかになっている。

甲板上に載せるコンテナが、船の重心を上げ、船を不安定にさせる一番の要因だろう。車両の位置よりも高い位置の前部甲板に多く乗せられていた。頭が重い状態で航行していたことになる。

荷物が船の上方にあればあるほど、ちょっとした揺れでも、大きく揺さぶられる。本来は、船の喫水線以下に、荷物を入れなければ安定しないものなのに、このフェリーの場合、港でクレーンで上げ下ろしするための効率を優先して、オープンデッキの甲板上にも載せている。

セウォル号が右に急旋回したから、船が大きく傾き、荷崩れを起こしたと指摘されている。操舵手が急旋回させたことになるのだろうか。旋回に伴い、荷崩れを起こし、船が大きく傾いたために、結果的に急旋回になったと、私は推測している。直前に起きた３６秒間の停電が何らかの要因になったことが考えられる。そ

こでひらめいたのが、フィンスタビライザーの動作だ。これは電動で制御される。

構造的にバランスの悪いフェリーには、安定を保つためのフィンスタビライザーが取り付けられている。横揺れを防ぐために、水中翼の角度を自動的に変えているのだ。この角度の調整が難しい。船が右に揺れ始める先を制して調節しなければならない。船が右に傾いた時、船が自然に復元力を受けて、左に傾きはじめるが、その力を打ち消すように、ラダーの角度を変えなければならない。船が横揺れする微妙なタイミングに合わせてフィンスタビライザーを制御しなければならないわけだ。

停電でフィンスタビライザー操作のタイミングがずれたと考えられる。停電でフィンスタビライザー制御も止まってしまったと考えられる。そのため、傾きを防ぐタイミングが合わなくなっていたと考えられる。つまり、船が例えば左に傾こうとする復元力が働く時に、フィンスタビライザーの制御が停止しており、左に傾ける作用のままになっていたとすると、力が加算され、大きく左に船が傾いてしまうのだ。

出航が遅くなったために、その遅れを取り戻そうとして速度を早めにして航行していた状況があり、その速度が揺れを大きくしていたとも考えられる。通常より早い速度も不安定にさせる要因の一つだ。

さらに、悪いことに、このタイミングで操舵手が進路を右方向に切る操作を行なった。本来は済州島に向けるための、やや右よりに進路を変えるための操作だったが、この挙動が遠心力を加えることになるから、左舷に傾かせた。船体が振られたために、最初の荷崩れが起こり、それ（おそらく積載オーバーのトラックだろう）が船体の左舷に「ドーン」と当たった。それが船の転回を加速するモーメントとなってしまい、小さな右旋回のはずが、大きな右旋回になってしまった。その急転回によって、またさらに大規模な荷崩れが発生する――という連鎖が考えられる。

なぜ船内が停電したのだろうか。老朽化しているにもかかわらず、船のメンテナンスがろくに行われていなかったためにちがいない。電源設備が、おそらく定期点検もまともされず、故障箇所が見つかっても修理もされず、ほうって置かれたのだろう。船会社が、そんなメンテナンスにかける費用を出し惜しんだということだろう。船会社は、今年の一月には船を手放すことも考えていたという。修理に相当金がかかるとみていたからだろう。

この事故では、乗客に多数の犠牲者を出してしまったことが一番の問題になっている。海が荒れていたわけではない。暗かったわけではない。陸地から遠い外洋だったわけではない。

彼らは逃げ遅れたのだ。船が傾いてから完全に転覆して沈むまでに、船外に避難する時間が十分にあったのにも関わらず、乗客の多くは船室から脱出しなかった。「その場にいろ」という船内放送に従ったからだ。船外に出ろという緊急の放送があったのは、転覆寸前だったというから、避難誘導が完全に遅すぎたのだ。甲板から海水が入りだした時点で、逃げるしかなかった。その水を見るまでもなく、船が何度傾けば浸水が始まるか、乗員はわかっていなければならなかった。浸水が始まれば、その原因が何であろうと、転覆・沈没は時間の問題になる。

おそらく、乗員の間では、日ごろから過積載の状態が常態化し、積載物の固定もいい加減だったから、常に荷崩れの心配があったと思われる。乗客が一斉に移動すると、さらに荷崩れが大きくなり、船の傾きが大きくなり、ひっくり返る懸念があったから、「その場に動くな」という指示を出したものだろう。荷崩れによって船の傾きの復元がもう絶望的なっていたのに、まだ「その場にいろ」という指示は、「船と一緒に沈んでしまえ」という意味でしかなかった。

それを放送した乗員は、「パニックにならないように乗客を落ち着かせた」うんぬんと言っているが、言い訳だろう。乗員の彼ら自身がパニックになって、どうすべきがわからなくなっているから、そんなことを言ったのだろう。乗客が騒ぎ出したら、抑える自信もなく、自分たちが責めたてられるのが嫌だったのだろう。どうしたらいいのかわからなくなっている乗員にとって都合のいい言葉だし、「落ち着かせる」という大義名分にもかなう。聞き分けのよい素直な乗客たちは、特に高校生たちはその言葉に従い、大きく傾斜した客室の中で、足を踏ん張るなどして耐えていた。次の指示を待っていた。

乗員たちは、船長の指示を仰ごうと、連絡を取ろうとしたのかもしれない。そのころ船長は休息をとっていたというから（熟睡していたらしい）、何が起きたのか見当もつかず、あたふたするだけで自分が逃げ出すことで精一杯だったとみえる。

８時４９分を右にかじを切った直後の、８時５０分には、すでに船体が左舷に２０度傾いたというから、かなり急激に傾いたことになり、誰でも慌てふためく

のは無理ないのかもしれない。その初期段階で、もう転覆・沈没の危険がいっぱいだった。

彼らは、避難誘導のイロハも知らなかったから、対応できなかったともいえそうだ。船が傾き始めたのなら、当然、「客室から出ろ」と乗客に指示すべきだった。待機させたいのなら、客室内でなく、「甲板に上れ」と言うべきだろう。甲板には救命ボートも多数備え付けられていたのだ。そのうち船の傾きが大きくなりすぎて、客室にいた人たちは、そのドアを開けることも、移動することもできなってしまった。（この事故の後、韓国では、「そのまま待機」という係員の言葉はまるで信用されなくなったという。）

---

⑤店の従業員を次々に消していった夫婦

【毎日新聞夕刊 2014/6/16 社会

福岡県警は、筑後市のリサイクル店経営の夫婦、中尾伸也被告（47）と妻の知佐被告（45）を知人の殺害容疑で再逮捕した。彼らは他人のキャッシュカードを使って現金を引き出したとして窃盗容疑で逮捕・起訴されていた。殺害の逮捕容疑は、共謀して２００４年５月ごろから、筑後市内のアパートで、従業員の日高崇さん（当時22歳）の顔や頭を殴ったり背中を蹴るなどして、６月下旬ごろ外傷性ショック死させたとしている。県警によると、伸也容疑者の供述に基づき、実家の庭周辺から骨片の一部を発見。ＤＮＡ鑑定により、日高さんのものと判明した。県警が「夫婦周辺で行方不明者がいる」との情報を得たのは昨年秋ごろ。夫婦の周辺で行方不明になっているのは、少なくとも４人。店の元従業員２人（日高さんを含む）は２００４年ごろと、女の実妹の夫とその長男は０６年３月以降に不明になった。実妹とその夫もリサイクル店で働いていた。実妹については県警が福岡県外で無事を確認している。】

【毎日新聞朝刊 2014/6/17 社会

伸也容疑者はしつけと称して日高さんに体罰を加えたと認めている。日高さんは店で働き始めた０３年８月以降、交際相手などの名義で消費者金融から借金をしていた。「夫婦に借金させられたと聞いた」と証言する知人もいる。日高さんの両親は交際相手の両親にも金を返済したという。他の元従業員によると、店内では夫婦が従業員に対して日常的に暴力を振るっていたといい、ある従業員の親族は「従業員同士でけんかさせられ、大けがをさせられ

た」と証言。暴行を受けた別の従業員が「いつも迷惑をかけているから」として消費者金融で借金させられ、金を取られたこともあった。】

【毎日新聞朝刊 2014/6/18 社会
殺人容疑の男、日高さんへの暴行を「妻に言われて殴った」
日高さんは一カ月以上暴行を受けて死亡したとされ、県警は暴行が長期に及んだ経緯を調べる。】

【毎日新聞朝刊 2014/6/18 社会
伸也容疑者が複数の行方不明者の遺体を「実家の庭に埋めた語、掘り返して川に捨てた」と供述。】

【毎日新聞夕刊 2014/6/19 社会
容疑者は、日高崇さん殺害の数カ月前、日高さんの母に、日高さんが借金しているなどと理由をつけ、金銭を要求してきた。母親が断ると、日高さん本人から電話があり、「忙しいので渡して」と頼んだという。この電話が最後の会話になった。その後（殺害されたとされる６月に）、伸也容疑者が「売り上げを持ち逃げされた」と言ってきたので、母親は伸也容疑者に約３００万円を支払った。
数年後、不明の日高さんを探す親族が、３００万円について正すと、「店の菓子を全部食べた」などと説明したという。】

【毎日新聞朝刊 2014/6/23 社会
筑後リサイクル店員殺害事件、逮捕１週間、殺意の立証がカギになる。
「従業員同士でけんかさせられた」など暴力による支配をうかがわせる証言が複数ある。６年前働いていた知人「従業員を足で蹴ったり殴ったりすることに快感を感じているのかと思った」】

日高さんには交際相手の女性がいたのか――（フー、ため息が出てしまう）
それにしても、これだけモラルや良心の欠如した夫婦も珍しい。自分たちは店主であり、従業員たちは店主さまに仕える『奉公人』でしかなかった。彼らは他人の痛みや苦しみなど、すこしも感じないのだろう。
自分たちは有り金を使いまくって、高級車を乗りまわすなど、贅沢に暮らし、結果的に破産するほど金遣いが荒かった一方で、人使いも荒っぽかった。若いまじめな従業員たちを怒鳴りまくり暴行しまくり、消費者金融に金を借り出させては巻き上げ、死ぬまで虐待を繰り返し、死ねばその遺体を損壊して跡形も残らないように始末し、その両親からは「オタクの息子がい

なくなった。店の金を持って逃げやがった」とウソ八百をついて金をせしめていた――という容疑がある。死なせたあとも、その両親から金をせびり取るとは、何とひどいことか。この男には人情も罪の意識も後ろめたさも欠如しているのだ。非道を極めている。その非情さにおいては、似たもの夫婦だ。

大店の跡取りとしてちやほやされて育った男は、長じて、筑後市の一角でやや大型のリサイクル店を経営するに至った。その、大して忙しくもなさそうな店に働く従業員たちは、入店してまもなく次々に辞めていったと推測される。残っていた者も、やがては行方不明に……。

従業員たちが辞めた理由は、ずばり言うと、お坊ちゃん育ちの店主の男が、人使いが荒かったというだけでなく、その暴言・暴力がすさまじかったからだ。元従業員だった人たちの多数の証言には驚かされる。妻の女はそれを見て見ぬふりをしていたというより、むしろ男にけしかけて、やらせていたというのだ。共謀していたことが十分に疑われる。女が暴力を振るったという証言も多くある。従業員たちを殴れば殴るほど、金を搾り取れるから、彼らはもう止められない。ほとんど趣味と実益を兼ねた暴行だった。店主と従業員という雇用関係・上下関係をいいことに、店主が一方的に責めまくり、無抵抗の従業員が死ぬまで暴行を続けるというすさまじさを想像してほしい。死んでもその骨を砕いたりしていた。完全に行方不明にするためだ。

パワーハラスメントの典型だろう。男は高級車でリサイクル店に乗り付けると、従業員たちを整列させ、店主さまとして振舞ったという。私には男の変身ぶりが目に浮かぶ――従業員を高給・厚遇で募集しては、純朴な人たちをニコニコ顔で迎え入れ、数日もすると、店主さまに絶対の忠誠を誓わせるなど、封建時代さながらの「店のしきたり」を口やかましく叩き込み、些細なミスやてぬかりに、鬼の顔で怒鳴りまくる。たとえば、レジスターの示す金額と実際の札やコインの数値が合わなければ、烈火のごとく怒りまくる。

「万札が一枚足りないじゃないか。テメー、売り上げをちょろまかしやがったな！」「**バシン、ゴツン**」（実は、合鍵を持つ店主が自分でレジスターから札を抜き取ったりしたのだろう、と私は邪推する。）

男の意のままにしないと、殴る蹴るの暴行に及ぶ。男は体格だけはよかったらしい。暴行の目的の一つが、金融機関のキャッシュカード（もちろん借金が可能なカード）を作らせ、それを取り上げるとともに、パス

ワードを聞き出すこと。あとは、銀行から金を引き出すだけ。

若い従業員が、辞めたいと両親にもらすと、電話の向こうから「x月に入店したばっかりやないか。辛抱が足らん。そんな根性なしでは、どこへ行っても通用せんぞ！」と叱咤激励され、「我慢しろ！　帰ってくるな！」とまで言われてしまう……。逃げ出そうにも、男に金を巻き上げられているから、汽車賃もない。

女の実の妹も、夫といっしょにその店で働いていたが、暴行を受けまくり、命からがら逃げ出したという。その夫と、まだ幼い息子が行方不明になった。その妹からの証言は聞こえてこない。もう口に出せないほどのすさまじい体験だったと想像される。彼女は警察に保護されたというから、男から逃げ隠れしていたのだろう。そしてハンニャの顔をした姉からも……。

閑静な土地柄だから、近所にも聞こえたはずの罵声・物音・悲鳴があったと思うが、隣人たちは聞こえないふりをしていたらしい。警察にしても、そんな音「**バシン、ガッシ、ドシッ、ギャー、ウ〜ン**」が聞こえたという通報だけでは少しも動かないのだ。多くの元従業員が暴力の被害にあっているのに、警察に訴えても、取り合ってもらえなかった可能性がある。警察は〈どうせまた、夫婦がだめな従業員にしつけをしているのだろう〉などと安易に考える。〈警察がそんな内輪もめを仲裁したところで、何の手柄にもならないもんね。めんどうな調書を書くのはごめんだ〉

（２０１２年に発覚した尼崎連続変死事件でも同様だった）

この店に関係して行方不明者が何人も出ているという事件の通報で、さすがに警察も重い腰を上げて捜査し始めると、とんでもない事実が次々に浮かび上がってきた。

警察は、男には複数の知人（知人といっても、おそらくリサイクル店の従業員だった人たち）のキャッシュカードで金を引き出したとする窃盗容疑で、まず逮捕した。県警は男から供述を得ることに成功し（よほどうまく誘導したのだろう）、供述どおり日高さんの骨片を見つけた。骨が見つかれば、警察は張り切る。県警は、殺人容疑に切り替え、筑後署に捜査本部を設置した。

遺体が判別された元従業員の日高さん以外、行方不明者がいる。何人の従業員が行方不明になったのか、今の時点でもはっきりしていない。

死亡時期が日高さんより早いとみられる、別人の骨

片が見つかった。男は「殴っているうちに死んだ」と供述。ただし「殺すつもりはなかった」と言い張っている。（裁判で、殺意があったと判定されれば、極刑になる）

７月になって、実家近くの川底からまた別人、三人めの骨片が鑑定された。男は、義妹の夫とその息子の死亡にも関与したことを供述した。

---

⑥黒人を試合に連れて来ないでくれ

【毎日新聞夕刊 2014/4/28 スポーツ
米プロバスケットボールのＮＢＡクリッパーズオーナー、ドナルド・スターリング氏（80）の人種差別発言がインターネットの芸能サイトＴＭＺで公開されたのを受けて、オバマ大統領が「きわめて攻撃的な差別発言だ」と批判する事態に発展した。クリッパーズにはリバーズ監督をはじめ、黒人選手が多い。監督は選手とのミーティングで試合をボイコットすることも検討したという。】

【毎日新聞夕刊 2014/4/30 社会
ドナルド・スターリング氏（80）の人種差別発言で、ＮＢＡが永久追放の処分を決定した。インターネットの芸能サイトＴＭＺでその発言の音声が公開されたのを受けて（差別があったと判定した）。スターリング氏が友人の女性に対し、黒人を試合に連れてこないよう求めたもの。】

【毎日新聞朝刊 2014/6/6 スポーツ
人種差別発言問題で追放のオーナーがＮＢＡを告訴した。
知人女性との会話で、この女性と黒人男性の交友に不快感を表明。この会話が暴露された。】

【毎日新聞朝刊 2014/6/6 スポーツ
ドナルド・スターリング氏がクリッパーズを２００億円でスティーブ・バルマー氏に売却することに合意した。スターリング氏がＮＢＡとコミッショナーに求めていた約１０億ドルの損害賠償も取り下げることになるとした。】

ドナルド・スターリング氏と、その音声を録音してネットに拡散させた女との関係は何だろう。かなり親しい間柄だったに違いない。

女は、スターリング氏が再三に渡って「黒人を嫌う」発言をすることに不満を持っていたのだろう。あるとき、彼女はボイスレコーダーを忍ばせて、まんまとそ

の声を録音すると、その不満のはけ口にするかのように、天下にばらした。もちろん彼には内緒で投稿した。彼女は、誰と付き合おうと、スターリング氏にとやかく言われたくなかったのだろう。

案の定、ネット上は大騒ぎになった。問題発言に対して、人々の興味は津々なのだ。スターリング氏は、人種差別主義者として、抗議や批判の的となった。本人の音声だから、動かぬ証拠になった。女は「いい気味だわ」と思ったことだろう。〈やりすぎたかしら……〉とも思ったかもしれない。

差別発言に違いないから、黒人たちが怒りまくるのは当然として、全米の人たちが人種を問わず、こぞって怒りを引き起こす事態となった。オバマ大統領も強く批判した。全米中、いや世界中にその声が拡散し、もう爆発的な抗議になった。この国では、黒人を差別することは最大の「ご法度」なのだ。ちなみに、黒人差別の撤廃を訴えたキング牧師は、ほとんど神様扱いされている。

スターリング氏はクリッパーズのオーナーだったから、クリッパーズ球団自体に怒りの矛先が向いた。そして矛先は、スポンサーにも向けられてしまう。そのため、クリッパーズの有力スポンサーがいっせいに下りようとする気配が伝わり、ＮＢＡとコミッショナーがあわてふためいた。スポンサーが下りてしまっては、プロスポーツが成り立たなくなるからだ。スターリング氏を厳罰に処する以外に、スポンサーをなだめる手段はなかった。かくしてスポーツ史上、最大級の罰をスターリング氏に課すことにしたのだ。永久追放と罰金２５０万ドル（約２億６０００万円）だった。その裁定は、理事会で決めたことにはなっているが、コミッショナーの一存によるところがある。

罰金の額もかなりなものだが、スターリング氏が永久追放という最大限不名誉な罰を食らったことが大きい。それまで彼は、地位も名誉も高く、クリッパーズのオーナーとしての名声もあった。それが一気に転げ落ち、晩節を汚す事態となった。スターリング氏自身、この厳罰には承服できないところだろう。ＮＢＡとコミッショナーに名誉毀損の損害賠償の訴訟を起こしたのはその表れだろう。法廷で白黒つける構えを見せたものの、クリッパーズを超高額な２０００億円で売却できたためか、矛を収める形になった。

スターリング氏の肩を持つと、それまで黒人を差別するような言動はなかった。現に、クリッパーズの監

督に黒人を起用し、選手にも黒人が多い。感情的には黒人を嫌ったにしても、そんなそぶりを一切見せなかったのだ。ただし、親しい女性には例外だったようだ。以下のようなシーンを想像してみよう。

スターリング氏は、ある一室で問題の女性と一対一で向かい合い、わがままを言った。プライベートな空間だったわけで、その音声は誰にも聞こえていないはずだった。ここだけの話であり、他の誰かに言うつもりはなかった。

「あの黒人といっしょに試合を観に来ないでくれ」

女が他の男と親しく付き合うのは、交際する関係上、ある意味で違反行為であり、スターリング氏にとっては、そんなに無理を言っているわけではなかった。嫉妬めいた感情もあったことだろう。その男はたまたま黒人でもあり、スターリング氏には余計に気に入らなかったわけだろう。つい差別的なことを口走った。

「オレは黒人が嫌いなんだ。同席したくもない」

そんな意味の声が、ボイスレコーダーとネットを通じて大きく広く、世界中に響き渡った。

---

⑦最後は金目でしょ

【毎日新聞朝刊 2014/6/17 総合

原発事故で出た汚染土などを保管する中間貯蔵施設の建設を巡り、難航している被災地との交渉について、石原環境相は、6月15日に終えた福島県の候補地での説明会を受けて、首相官邸で今後の方針などを菅義偉官房長官に報告した。その後、通路を歩きながら、記者団に「どのような話をしたのか」と問われると、「大した話じゃない。説明会が終わり、官房長官が非常に気にしておられたのでスケジュール感を説明した。最後は金目でしょ」

施設計画を巡って、政府は説明会を開いたが、具体的な土地の補償額などは示されていなかった。

夕方、省内で緊急に記者会見し、「（説明会では）お金の話が多く出た。最後はお金の話になるが、今は示すことができないという話だ」「金で解決できるなんて一言も言ったことはない」と釈明した。】

【毎日新聞朝刊 2014/6/18 総合、社説

石原氏「金目」発言で、福島県議会が抗議した。野党は不信任・問責案を検討している。】

【毎日新聞夕刊 2014/6/19 一面

石原環境相は「最後は金目でしょ」発言を撤回した。石原氏「住民に誤解を与えたということであ

ればおわびしたい。金で解決できるとは全く考えておらない」　国会閉会後に福島県を訪れ、謝罪することも明言した。】

【毎日新聞朝刊 2014/6/24 総合

住民の疑惑は消えない。「金目」発言の石原氏は、福島県の各地で謝罪行脚した。】

石原伸晃環境相は、菅官房長官に面会し、その部屋を出て通路をすたすた歩いていると、記者たちが追いすがりつつ、質問してきた。ぶら下がり取材というやつだ。質問してくる記者に、彼は軽く答えた。映像を見ても、軽いやり取りが交わされていた。顔なじみであろう記者の質問を無視するだけの、警戒心も緊張感を持たなかった。

「……最後は金目でしょ」

石原氏はその日のうちに意味を釈明したのだが、燃え上がった火の手を消すことはできなかった。結局、彼は猛烈な批判と怒りにさらされ、平身低頭ひたすらお詫びをしなければならなくなった。

説明会では、出席者から「政府はいくら出すのだ？」というような質問が多く出されたという。彼をはじめとする政府側は具体的な数値を出さなかった。金の話を先に出すのは、こじれる元であることは、政府側はよく経験済みなのだろう。こういった場合、いくらの金なら妥協できるのかが焦点になる。政府が金額をなかなか示さないのは、当然なことでもあり、ある意味で、ずるいやり方でもあるのだ。最初から金額を示しては、代償を得る側が「もっと多く出せ」と要求するから、その額が吊り上げられるのに決まっているのだ。まずは方針だけを説明するのであって、金の話は後に（次回に）出すのが鉄則なのだ。その当たり前の鉄則について、つい彼は気安く記者に語った――「最後は金目でしょ」

彼は、「スケジュール上、次は金目でしょ」（次は金額を示す段階だろう）といったつもりだろう。彼はあくまで、今後の方針について、つまりスケジュールを念頭に入れていたのだ。しかし、「政府がそれなりの金を出せば、地元は妥協してくれるだろう」などと考えているように、曲解されたわけだ。「最後は金で決着させよう！」との意思表示とも受け取れる。

その発言は、石原氏にとって記者の質問を軽くいなしただけの非公式なものだったはずだ。石原氏と記者との間に交わされた受け答えの範囲内のことだった。

記者会見のような正式な発言の場でも、公式の場での見解でもない。もちろん、記事録にかかれるような発言ではないのに、それを「取り消す」というのも変なことだ。彼は記者に答えただけであり、福島の人に「金目でしょ」と言ったわけではないので、本来、福島の人に謝ったりする必要はないのだ。記者たちが、その音声をメディアで拡幅したから、福島の人にもしっかりと聞こえてしまったことになった。

なお、石原氏は「最後は金目だ」とは言い切っていないので、微妙なところがある。そもそも、彼の言い方は聞こえようによっては「最後は金目でしょ？」と、記者に逆質問したようにも受け取れる。それならば、問題の場面で、記者にボールが渡されたわけで、記者がそれを判断しなければならなかった。要は、記者会見のような質疑応答で答えたものでなく、ボール投げをするような立ち話での発言であり、とやかく言えないものなのだ。真に受ける必要はないのだ。いい加減な質問だから、いい加減に答えたというのが真相だろう。しかし、記者はみごとに言葉尻を捕らえて、読者の関心を呼びおこすような記事にした。

「金目」とは、あまり聞かれない言葉だが、辞書によると、単に〈金銭に換算した価値〉だ。金額を意味する。しかし、「金が目当て」の略語のようにも聞こえるから、やっかいだ。〈住民たちは、金が目的で、騒いでいる〉と批判したようにも受け取れる。それなら、「最初から金目でしょ」という表現になるところだ。

金が目当てだと言われては、それが図星だったとしても、福島の人たちは見下されたようで、怒りたくなるのは当然だろう。つい、「オレたちは、金が目当てじゃないんだ！　バｘｘロー」と言いたくなる。

それは結果的に不用意な発言だったけれど、審問に対する回答だったわけで、むしろ、記者の質問を無視するような、何を考えているのかわからない政治家たちより、ずっと好もしい。そんな発言で頭をぺこぺこ下げて回らなくてはいけないとは、むしろ気の毒だった。

しかし、曲解する方が悪いとは言えず、やはり、曲解されるような言葉足らずな表現をした方が悪いのだろう。

〈怒りをかったら、ともかくひたすら謝る〉、これも政界では鉄則になってしまったようだ。演技が求められるところだ。見た目ほど気の毒ではないのかもしれない。謝罪行脚をするのも政治活動のうちか？　もち

ろん自費であるはずがない。

---

⑧自分が結婚すればいいじゃないか

【毎日新聞朝刊 2014/6/19 社会
都議会、セクハラヤジ。１８日、みんなの党会派の塩村文夏議員（３５）が女性の妊娠・出産を巡る都の支援体制について一般質問をしていた際に男性の声で「早く結婚しろよ」「子供もいないのに」などのヤジが飛んだ。
塩村氏「女性の気持を代弁していただけに腹が立つし、かなしい」と語った。】
【毎日新聞朝刊 2014/6/25 一面、社会
都議会、女性蔑視ヤジ、再発防止決議へ。ヤジを認めた鈴木章浩議員（51）＝都議会自民党を離脱。
「自分が生んでから……」とのヤジもあった。】

議場の中央の発言席で塩村文夏氏がメモ書きを見ながら、女性の妊娠・出産を巡る都の支援体制についての一般質問していた。その途中、議員席から声が上った。
「自分が結婚すればいいじゃないか」

その瞬間、塩村文夏（あやか）氏（35）は顔を横に振るようにそむけて笑った。苦笑（にがわら）いを隠そうとするかのようなしぐさだった。続いて議員席から、「自分が生んでから…（それを言えよ）」「とりあえず結婚」「（彼女は）独身か？」「生めないのか」など複数の議員たちの間で私語をはさんだような、不規則なざわめきがあった。
そして議場全体に、ハハハと笑いが広がった。舛添要一知事も議場にいて、つられて笑ったことで、のちにメディアに追求されている。
野党席からも追い討ちをかけるように、「がんばれよ！」「動揺しちゃったじゃないか」という声がかかる。塩村議員の一般質問は続くが、議席からさらに「先生が結婚しろよ」という合いの手が入る。
少子化対策を求める本人が、結婚もせず、子供もいないのに、子育て支援を求めるのだから、おかしかったのだ。少子化対策を論じながら自分は結婚せず、ぜんぜん少子化対策に寄与していないという、いわゆる、言行不一致のおもしろさなのだ。自身が結婚して子供がいれば、説得力があり、からかわれもしなかったはずだ。
その和気あいあいの雰囲気と思われた議会で、質問を終え、自席に戻った島村氏は、泣き出してしまう。

そして怒りに震える。彼女は、議場の中央で多数の人に、未婚であることを「**笑われた**」のだ。それが一番ショックだったにちがいない。公衆の面前で、広い議会の中心で、彼女は笑いものにされてしまった。

結婚すればいいか、どうかという議論よりも、彼女がからかわれこと、笑われたことが問題を大きくしたわけだ。本当に辛らつな、悪質なヤジなら、笑いは起きないものだ。軽妙なエスプリ的ヤジだったから、笑いが起きたのだ。その笑いは、あざけるというより、軽い冗談的な笑いだろう。それを冗談として聞き捨てられなかったことが、彼女の弱さだったとも言えそうだ。他党の男性議員に、未婚であることの弱点をつかれてしまったことになる。だいたい、みんなの党会派が、からかわれる標的にされるような独身女性議員を質問に立たせたことが、ミスキャストであり、配慮が足らなかった、と私は思う。欲を言えば、彼女には、ヤジに対して切り返す機知を持つぐらいの強さを持ってほしいところだった。例えば、「花婿募集中でーす。でも、これは議事録に書かないでくださいね」

そんな彼女の弱々しさが、逆に注目されることになる。その負け犬っぷりに、誰もが彼女に同情・同調する。口汚い野郎どもにいびられる、一人のか弱い女性という構図だから……。

新聞には、セクハラヤジ、卑劣なヤジ、こころないヤジ、女性蔑視ヤジ、低俗ヤジ……という見出しが次々に大きく掲げられた。メディアは、都議会の男性議員たちがヤジで女性を侮辱したと書き立てる。ヤジによって一般質問が妨害された、議事妨害だと言い立てる。コメントを求められた女性の政治家などは口をそろえて「不愉快だ」と言い放つ。ヤジに対する非難の論調のオンパレードで、マスメディアが騒ぎ立て、波紋を広げまくる。か弱い女性であっても、メディアを味方につければ、限りなく強くなる。彼女は、短文投稿サイト・ツイッターに投稿し、ネット上に「怒り」が拡散した。

発言者の犯人探しにやっきとなり、連日、紙面やテレビの報道番組をにぎわした。彼女がヤジの発信元の方に瞬間的に視線を走らせた画像から、〈議場のどのへんからヤジが発せられたか〉を推理するコーナーがいくつかのニュース番組に盛り込まれた。自民党都議連たちが座る区域から発せられたことは間違いなかった。この手の犯人探しは多くの視聴者が一番興味を持つことだから、メディアも張り切る。録音された声から、声紋の専門家に鑑定してもらおうという動きがあ

り、その見解が、テレビの前で興味津々の視聴者に報道された。新聞の紙面においても、日に日にこの記事に関する面積が大きくなり、大々的な抗議のキャンペーンを張るようになった。この騒ぎは、ほとんどおさまりがつかなくなった。矛先は自民党都議連に向けられた。最初は聞き流そうとしてしたかのような彼らも、誰がヤジったのか、聞き取り調査を始めざるをえなかった。この騒ぎに国政の自民党幹部たち、石破茂氏や野田聖子氏らも怒りをあらわにし、ヤジった議員を非難しまくっていた。ヤジった議員が名乗り出ないことにいらだっていた。

私は疑問を持つ、これは、そんなにマスメディアがいうような極悪非道なヤジだろうか？　人道に反するものだろか？　女性を侮辱する言葉だろうか？　何でこれがセクハラなんだ？

「結婚すればいいじゃないか」と言っただけのことだ。笑いが侮辱になったわけで、その言葉に侮辱の意味はない。いつまでも結婚しない若い人たちに、年長者が結婚を促すアドバイスのように私には聞こえる。結婚を押し付けたわけではない。そんなに卑劣でも、恫喝や暴言とも聞こえない。卑わいでもなく、いわゆるセクハラの言動にも聞こえない。少し、それにかするかもしれないが……。週刊誌によると、議員席では「不倫しているらしいぞ」という話し声もあったとされる。たとえそれが事実だとしても、それを言ったならば、確かに誹謗したことになる。だが、彼女の耳に届いたかどうかは不明だ。

ヤジも飛ばないような、まじめすぎる議会より、自由なヤジが飛ぶような議会の方が、闊達（かったつ）な議論がなされると思うから、私はヤジをある程度寛大に考えたい。ヤジも議論のうちだろう。恫喝まがいのヤジならともかく、この場合は、女性議員が自分のことを棚にあげて、少子化対策について質問したことへの皮肉であり、ジョークになっている。本来は、笑って済ませるたぐいのことだろう。

昨今は、雇用機会の男女均等が建前だから、結婚しなくても、女性でも職について食べては行ける。結婚が「永久就職」といわれた時代ではなくなった。結婚しても働かなくてはならない。経済や社会の複合した要因や事情により、結婚するモチベーションが下がっているのだろう。選り好みをしていたりすると、どんどん婚期が遅れてしまう。男にしても、結婚しなくても、生活にそれほど不自由はしない……。中には、「パ

ートナーに不自由はしない」と豪語するものもいるだろう。年長者は、晩婚化を憂いているのだ。特に、なかなか結婚しない娘をもつ親は心配だろう。娘の側にしては、「結婚しろ」とうるさく言われるのは嫌かもしれないし、婚期などという言葉は使ってほしくないだろうけれど……。中年に差し掛かり、結婚に焦り気味の独身女性にとって、結婚を催促されることは耳の痛いことかもしれない。才色兼備の彼女の場合も、被爆者の2世であることが挙げられ、結婚に踏み切れなかった個人的な事情があったとされる。それは、後からメディアが指摘した事情であり、議員たちが知っていたとは思えない。

　そんな事情があるにせよ、「結婚せよ」という言葉が禁句になるのは、よほど例外的なケースにおいてだろう。そんなセリフが一般的な禁句となれば、未婚の青年たちは、言われないことをいいことにして、ますます結婚を遅らせるだろうから、少子化が進むことになる。少子化を心配するなら、むしろ年長者は「若者よ、結婚せよ！」と叫ぶべきだろう。少しプレッシャーをかけた方がいいだろう。それに反発する娘など、おこがましい。

　その直後から犯人として疑われ、メディアに付きまとわれながらも、一貫して否定していた鈴木議員が、事件から5日後の5月23日、一転して名乗り出て、ついに謝罪会見をした。彼の心境の変化は、やはり自民党幹部の圧力によるものだろう。その様子がテレビで映し出された。つまり公開謝罪だった。公開謝罪は、彼女の要望にそってのことだろう。本来なら、謝る姿など部外者に見せたくはない。見せしめなのだ。日本だけでなく、海外にもその惨めな姿が見られてしまう。

　しかし、そのテレビの画像を見て、その潔さに私は感心した。なんと礼儀正しい謝罪の仕方だろう。メディアが群がる広い室の檀上で、彼女の前に姿勢正しく立ち、口ごもることなく、部屋中の者に聞こえる声ではっきりと謝罪し、頭を深々と下げる。お手本のような（マニュアル通りの）詫び口上だった。まるで謝る練習をしてきたかのようだ。そんな態度と言葉に誠意のなさを疑う人がいるとすれば、相当に疑り深い人だ。自民党上層部から圧力があったにせよ、その姿に好感を持った。（それが好評を博したらしく、彼はあちこちで頭を下げるはめになった。）

　一方の塩村氏は、まだふて腐（くさ）れていた。鈴木氏に目を合わせようとせず、鈴木氏の真摯な謝罪の言葉に、ろくに返事もしなかった。その後の記者会見で、「名

乗り出るのが遅い」と、むくれていた。複数のヤジが上ったのに、名乗り出たのが彼一人だけ、ということにも不満が残るらしい。平身低頭、謝罪させた上に、鈴木議員に対しての議員辞職を求める議案を都議会に出したのは、執念深すぎる。結局、都議会はまもなく閉会し、それは採択されなかったけれど……。

鈴木氏はもうヤジは飛ばさないと反省の言葉を述べたが、彼にはもっとヤジを飛ばしてほしい、と私は思う。たとえ失言しても、また謝ればすむことだから……。いや、すむことではなかった。今回、彼は自民党会派から離脱させられるというペナルティを食らってしまった。でも、会派から離脱すれば、もっと自由にヤジを飛ばせるだろうから、都議会を盛り上げてほしい。これで意気消沈したら、男がすたるだろう。

（女がくされば、男がすたる）

「みなせ」文芸の会要項

1　会員制

入会の資格等は、特にありません。執筆掲載希望の方、および購読希望の方であれば、どなたでもいつでも入退会できます。

2　年間会費

入会時と年初に千円を事務局に納入願います。

（懇談会の席で、直接納入でも可）

3　掲載負担金（一頁、原稿約2.5枚につき）

電子文書　300～400 円（発行時にかかった費用により確定）

手書き原稿も可能ですが、電子文書の+100 円高となります。

4　掲載内容

小説、評論、随筆、詩歌など文芸作品に限ります。

5　年4回発行（季刊）

発行の数週間後に、合評・懇談会を主に神奈川県内で開催します。

6　問い合わせは事務局まで、奥付参照。